

やさしい病害虫講座 38

粒状の殺虫剤

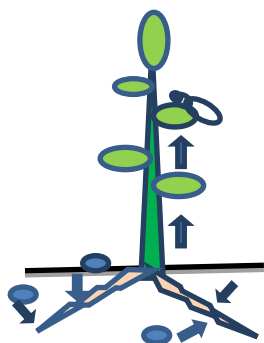
木村 裕

害虫の防除薬剤には、水に溶かして噴霧器で散布する薬剤、容器がそのまま噴霧器になっているスプレー剤、薬剤そのものを株もとに散布する粒剤などがあります。なかでも粒剤は散布器具が不要で、かつ地面にばらまくだけでよいので利用される方が多いようです。狙う害虫によってうまく使い分ければ便利なものです。

1. 汁を吸う害虫（アブラムシ、アザミウマ、コナジラミ）

これらの虫は野菜や花の新芽や新葉に寄生しますが、植え付け時に粒剤を地表面にばらまいたり、地中に混ぜ込んだりしておく、殺虫成分が植物体内を移行して葉や茎の上で汁を吸っている虫を防除します。しかし木の上にいる虫に対しては残念ながら効果は期待できません。

「アドマイヤー」粒剤、アルバリン粒剤、オルトラン粒剤」などがあります。また、アルバリン粒剤はハモグリバエ類にも効果があります。



2. コガネムシ類の幼虫

大きさは小さいですが、カブトムシの幼虫そっくりな虫が根をかじります。一株に5~6匹も集まれば根がなくなります。

畑を準備したときに土の中に「ダイアジノン粒剤5」を混ぜ込んでおくと被害は軽減されます。堆肥や落ち葉をたくさん入れた畑では発生が多くなりますので要注意。

3. ダンゴムシ

植木鉢を除けると、「何だ！何だ！」とぼやきながら四方に散らばってゆくダンゴムシは昆虫ではありませんが、皆さん方にとっては不快

な虫でしょう。しかし幼児にとってはよきお友達のように、手にとっては楽しんでいます。

体は丈夫な甲羅で覆われており、脚はたくさんあり、成虫も幼虫も同じ姿をしています。お仲間は昆虫ではなくてエビ・カニです。

普段は落ち葉を食べて掃除に一役かっていますが、小さな苗を植えると寄り集まってきて、葉や茎を遠慮なく食べ散らかします。

被害が目に残るときは、好物の餌「デナポンベイト」で釣って防除します。この薬剤は水に溶けやすいので雨の日の餌付けはやめましょう。

4. ネキリムシ

植えたばかりの幼苗の茎を地際でチョキンと切って倒し、おもむろに葉や茎を食い散らかしますが犯人の虫はなかなか見つかりません。

地面を浅く掘って虫が見つからないときは、好物の餌「ガードベイトA」をばらまいて様子を見ましょう。薬剤は水に弱いので雨天の日は避けるようにしてください。

5. ナメクジ

日中は土の中で昼寝をして夜になると眼をランランと光らせ、幼苗の葉を食い荒らします。被害跡にはナメクジ特有の粘液が残っています。

雨の降らない日を見計らって好物のメタアルデヒドの含まれた「ナメクジ用の薬剤」をばらまきます。

6. センチュウ

根にこぶをつくる糸状の虫で、目には見えません。堆肥や落ち葉の中で見つかるセンチュウは無害で、根こぶはつきりません。

非常に防除の難しい虫です。畑を準備したときに「ネマトリンエース」を混ぜ込んでおくと効果があると言われてはいますが、私はまだ実験したことがありませんので、効果のほどは不明。

私はキュウリなどセンチュウの好きな野菜を植えるとき、株の周りにマリーゴールドを植えて被害を回避しています。